道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK

☆三好礼子の☆ ナチュラル・ロード

連載中のバイク専門誌、2月号は表紙でした。愛車バーディーと♪

三好礼子
エッセイスト・元国際ラリースト
～ http://www.fairytale.jp/ ～

「通ったね！」「迂回路じゃなくなった！」。カフェに来るライダーたちの年末年始の第一声は、もっぱらそれでした。松本市の北西に位置する我が町（四賀地区）の主要道路は、松本～上田を結ぶ国道143号線と力フェそばの松本市刈谷原と安曇野市明科を結ぶ県道302号矢室明科線（約11キロ）の2本。しかし後者は、2年前の2017年10月に立て続けにやってきた台風被害で法面が地滑り崩落し、土砂が道路と一級河川まで流れ出たため、通行止めになってしまいました。通勤や通学には欠かせない道だったので、地域は愕然。わずかな距離でも迂回の生活道路を確保するためには多くの地元民から用地を借りなければならず、調整から着工、工事完成には4ヶ月半を要しました。オフロード等の私は大好きでしたが、田んぼの農道を繋いだ起伏のある簡易舗装は狭くてすれ違いが大変だったし、「通り抜けられません」看板がある地元優先の集落を通るのは、いつも申し訳ない気持ちでいっぱいでした。近隣の店舗は「この先通れません」と書かれてあると、お客が来ない」と切実そうでしたが、みんなのためにと土地を提供したものの、家の横を頻繁に車両が通るのは如何なものかと頭を抱えた人もたぶんいらっしゃったはず。けれど、ライダーや観光客が通っても文句を言われることはなく、むしろ交互通行で道を譲り合う光景はなんだか微笑ましく、通るたびに心がほこほこしてくる迂回路でした。

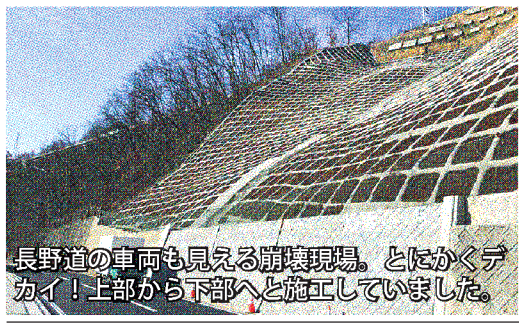
通れることを知らない人は10キロ以上回り道してカフェに来てくれていたので、年末からの通行止め解除には、みんな大喜びとなった訳です。まだ片側通行規制しつつ工事は続くのですが、正月休みの全面通行可能時にさっそく見学に行ってみると、「うわ～～っ！」「すご～～い！」と感嘆符の嵐となりました。当初1年経っても木を伐採削除しただけの手付かず状態（施工実施までの手続きあれこれ？でしょうか）で、不可能なのかなーと余計な心配したくなる絶望的な急斜面崩落だったのですが、見事に法面が蘇っていました。長野自動車道まで届きそうな勢いだったので、みんな心配だったのですが、これで一安心。とはいえ、左右にも他にもハザードマップの危険箇所がいっぱいあり、懸念は今後の自然災害。もう一本の生命線の国道も崩落防止対策工事で片側規制中ですが、昨年10月の台風19号で被った林道の崩落箇所は二桁に上り、「どこから手をつけていくのだろう？」「いつ元に戻るのか？いや、戻らないのか？」と難題が山積み。でも今は、この一本の県道が蘇った幸福感を味わいたい！道往くあの人（宅配便）この人（定期バス）、みんなニッコニコ笑顔で手をあげて通り過ぎて行きます。

そこにあるだけで勇気や希望や縁や優しさを生み出してくれる「道」って、ほんとうに凄い。いっぱい眺めて、「ありがとう」を伝えました。もちろん耐えてくれた簡易の迂回路やたくさんの地権者さん、工事関係者の方々にも♪

崩落後一週間。地滑り範囲は、高さ45m、斜面長さ90m、幅45m。崩壊土砂量は推定1万m³。

18ヶ月後、あまり変わらぬ光景。三者（高速道路・地権者・県道）の擦り合わせが大変そう。

待ち望んでいた「四賀方面通行できます」の看板。私のように嬉し泣きした人、多いはず。


長野道の車両も見える崩壊現場。とにかくデカイ！上部から下部へと施工していました。

忘年会越しての初日の出。東山道沿いのカフェに集まるみんなも旅好き、前向き、未来志向♪

迂回路にて茫然となった2年前。来年の駅伝はこのコースで走れるね。いっそ名所にしては？

残すはフェンス工事のみ。着工したら早く、台風19号にも耐えてくれた頼もしい法面です。

都市計画の中の道路㉒

近代都市計画の曙（その4）

東洋大学国際学部・准教授
志摩憲寿

引き続き日本と欧米諸国の都市計画との出会いを読み解いてみたいと思います。今度は東京です。「火事と喧嘩は江戸の華」と言われるほど火事の多かった東京、さらに言うならば、日本の都市において不燃化は（今日においても）都市計画上の最重要課題にあげられてきました。

江戸時代、当初は豪奢禁止という観点から町人地では土蔵造が禁じられていましたが、1720（享保5）年の町触れによって耐火建築として瓦葺や土蔵造が認められるようになります。これが明治に入り、1881（明治14）年の通達によって、旧町人地の日本橋通りをはじめとする幹線道路7本・運河16本は防火路線に指定され、さらに、全ての建築の屋根を瓦・石・金属などの不燃材料で葺き替えることが指示されました。結果として伝統的な土蔵造が多く採用されることとなり、日本橋近辺の大通りの家屋のうち9割ほどが土蔵造として建て替えられました。

また、この頃の防火という点で欠かせないのは、設計にイギリス人技師ウォートルスを招聘して進められた「銀座煉瓦街計画」でしょう。1872（明治5）年、京橋地区をはじめとして築地居留地にまで延焼した大火は、東京の不燃化の必要性を改めて認識させることになり、銀座煉瓦街計画では、都市の近代化と合わせて不燃化事業を進めることになりました。具体的には、銀座大通りの幅員を27メートルに拡張し、かつ、車道と歩道の区別を付けて歩道には街路樹やガス灯が整備されると共に、沿道建築物は煉瓦造に建て替えることとなりました。計画そのものは、予算難などから当初は厳しい実施状況にありましたが、煉瓦造建築も徐々に増加することとなりました（図）。その後、銀座煉瓦街は近代的な商店街の一つのモデルともなります。

このようにして、近代都市計画と出会った東京の街では、江戸時代からの土蔵造の街並みと近代的に生まれ変わった煉瓦造の街並みとが並び合う形となりましたが、その根底的な課題は防火にあり、さらに言うならば、建築様式は異なれど、街路には防火上の重要な意味が込められた点は共通したところでもありました。

参考文献：高橋康夫・吉田伸之・宮本雅明・伊藤毅（編）（1993）「図集日本都市史」東京大学出版会、東京都（2019）「東京の都市づくりのあゆみ」、都市史図集編集委員会（編）（1999）「都市史図集」彰国社

図　計画後の銀座の煉瓦建築（出典：都市史図集編集委員会（編）（1999））

ハッと思いました

明けましておめでとうございます。

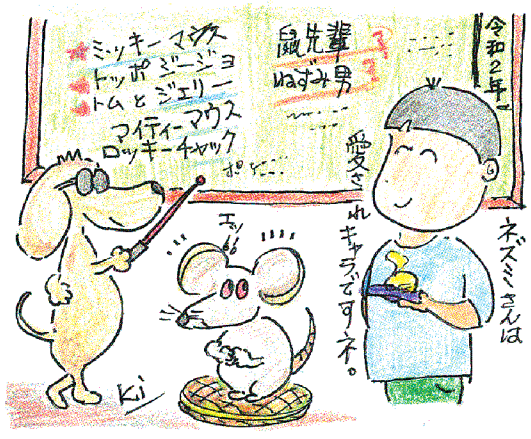
さて、今年はオリンピックイヤー、色々と問題も残っているようですが、夏冬合わせて戦後の日本で四度目の五輪大会が開催されます。過去の大会に比して、明らかに社会の中でその存在や様相、国民のとらえ方が異なっています。オリンピックの基本理念が消えてしまったようで。少なくとも私はそう感じています。

大会が終わった後の施設がレガシーとして後世に残るようなと言うことでしたが、何だか「負のレガシー」になりそうな物もチラホラ。だとしたら、なんて無責任なんだろうか、その中の一人として自分は今後何をしなければならないのか、何て事も頭の中にチラホラしながら新年が始まってしまいました。

今年は子年。干支は、子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥の順で口にしますので、今年は何事に向きに考えて行く事にしましょう。

と言うことで、「初心忘るべからず」クルマに乗るときは、免許取得時の教えを思い出してしまいましょう。飲んだら乗るな・。人は右　車は左・。横断歩道は手をあげて・。信号機の赤と黄はとまれ・。自転車は車・。人は誰もが多くの仲間たちで出来ている社会と言うグループで生きているのです。まさにONE TEAM。一人じゃ生きて行けませんからね。

そう言えば梵鐘の音が騒音に聞こえて迷惑だと騒ぐ人がいましたね。皆さんは、除夜の鐘の音を聞かれましたか、どの様に聞こえましたか。どなた様もよいお年をお迎えください。



両と同じ・など、何年たっても何十年たっても揺るがぬ大切なことを今一度、肝に銘じて。

併せて、普段から、おはよう。こんにちは。こんばんは。お願いします。ありがとう。を忘れずに口にしましょう。人は誰もが多くの仲間たちで出来ている社会と言うグループで生きているのです。まさにONE TEAM。一人じゃ生きて行けませんからね。

そう言えば梵鐘の音が騒音に聞こえて迷惑だと騒ぐ人がいましたね。皆さんは、除夜の鐘の音を聞かれましたか、どの様に聞こえましたか。どなた様もよいお年をお迎えください。